

中学生の皆さん！ 中間テストが終わって、もう一度勉強法について考えてみましょう！

今回のテストでは3学年合わせて、5教科で400点以上取った子が何人もいます。その中で450点以上取つてくれた子もいます。その他に、中2・中3では、前回のテストより100点以上、上ってくれた子がいます。

今回の中間テストでは、3学年とも国語の問題で、例年通り作文が出題されました。作文は入試でも必須の問題です。そのため、過去問題と模範解答を付けて、作文で注意することを説明したうえで、作文の宿題を出しました。宿題をやってきた子の作文を添削すると、最初から最後まで句点(.)のない文章を書いたり、話し言葉になつていたり、漢字の間違いも少なからずありました。しかし、間違いを指摘して細かく添削することが出来ました。そして、宿題をやってきた子のほとんどは、テストでもちゃんと点数をとってくれました。

今回の作文に限らず、宿題をやってこない子は、自宅での学習時間が不足しているのです。よく「自宅では勉強できない」と勉強しない言い訳を自分以外のせいにする子がいますが、このような子は絶対的な勉強量が不足しているので、テストで点数が取れるわけがありません。定期テストは範囲がわかっています。点数を取る努力をしてください。 テスト直前の土曜日・日曜日に教室を開けテスト対策をしていますが、直前の塾での勉強だけでは、点数が取れるはずもありません。自宅でも勉強してください。

また、勉強しているのに点数が取れない子もいます。そのような子は勉強法が間違っているのです。勉強法については、今までよくこの場でご紹介してきましたが、主な正しくない勉強法を二つ、ここでご紹介します。

① ただ書くだけの自主勉を勉強と思って、自主勉ノートをカラフルに埋めている子（中学1年生要注意！）

自主勉のノートを埋めることだけ考えて、「問題を解く」ということに頭を使っていない子です。このような子がよく言うことに「ちゃんと勉強しているのにテストで点数が取れない！」です。何も考えずに書いているのですから、点数が取れないのは当然です。ちゃんと考えて問題を解く勉強をしましょう。テスト直前にもかかわらず、教科書の文をそのまま映している子がいて、ノートの使い方のアドバイスをしました。

② わからないことをそのままにする子

勉強とはわからないことをわかるようにして、できることを増やすことです。ですから、わからないことをそのままにしていては勉強になりません。そのような子は、問題文を音読して、その問題がどのような答えを求めているか考えること。ここから始めてください。そしてどうしても、わからなかったら、例題、解説を読んでみる。その上でもう一度考えてみる。それでも、わからなかったら、先生または、聞きやすい誰かに聞いてみる。ここでわかるようになっても、それはわかった気がしただけですから、もう一度、自分ひとりで問題を解いてみる。問題が解けない子は、もう一度やってみるという行動が足りないので。テスト前に保護者の方にメールしましたが、お一人お一人に返却したプリントに大切なコメントを記入しています。それが気を付けるべきことなのです。テストで高得点を取る子は、塾や学校の宿題や自主勉は当たり前で、自分で考え勉強をしています。生まれ持つて頭がいいのではありません。

考え方こと、そして努力することで、テストで点数が取れるようになるのです。
間違えた問題を、理解する。そして、解き直して正解にする。つまり＊を○にする。

納得できるまで考えることが重要です！

中3生のみなさんへ

中3生のみなさんは、夏休みに、受験に向け夏期講習を実施します。この夏期講習で1、2年の基本事項を復習し、夏休み明けからの入試実践問題演習につなげていきたいと思います。高校受験が成功するかどうかは、この夏にかかっています。また、夜の通常授業では、期末テストの勉強をします。

中1・2年生のみなさんへ

中1、2年のみなさんも、夏休み期間中は、休み明けに行われる期末テストの勉強をします。そのために、午前中は、教室を開ける予定です。（別紙にて後日連絡します。）

今月の予定

塾の夏期休暇 8月10日(水)～16日(火)です。ご予定下さい。

中3生の夏期講習は7月21日(木)から始まります。

夏期講習は上記の休みの期間も行います。

漢字の「手書き」が大切な理由

2022夏 プレジデント Family

京都大学医学部精神神経科助教 大塚貞夫さん の記事より

文章を書く仕事の人でもパソコンで文章を書いていると簡単な漢字でも書けなくなることがあります。足かけ3年になるコロナ禍で、小学校にもデジタル機器の導入が急ピッチで進んで、タブレット端末のデバイスを学習に使う場合が増え、せっかく覚えた漢字が書けないと子供たちが増えたのではないかでしょうか。

文章を書く力（文章作成能力）に、漢字を使いこなす力がどのように影響しているかを調べる実験が京都大学で行われました。

その漢字を使いこなす力をみるために漢字検定の問題を解いてもらいました。漢字検定の問題では、漢字を書く力（書字）・漢字を読む力（読字）・漢字の意味を理解する力（意味理解）を測ります。この三つの力が、文章作成能力にどのように影響しているかを調べました。

実験では、パソコンを使って文章を書いてもらいました。もちろん文字の変換機能を使うので漢字が書けなくとも、それが読めて、意味がわかれれば、漢字を使つた文章は書けます。

しかし、漢字を書ける能力がある被験者とそうでない被験者とでは、作成する文章に大きな差があることがわかりました。漢字を読む力と意味を理解する力は、文章を書く力に直接影響はありませんが、漢字を書く力は、たとえ、デバイスを使って文章を書く場合にも、文章を書く力に大きな影響を与えていたということがわかりました。この研究結果は、漢字を手書きで覚えることの重要性を示すものであり、手書きすることが、高度な言語能力の発達につながっているかもしれません。この結果は、漢字を手書きで覚えることの重要性を示すものであり、手書きすることが、高度な言語能力の発達につながっているかもしれません。

基礎学力を重視する学習塾
ただ今、新入塾生募集中
启伸塾

ふみづき
7月(文月)
July

